

再評価【番号23】

**主要地方道 徳島環状線
川内工区**

1. 事業概要



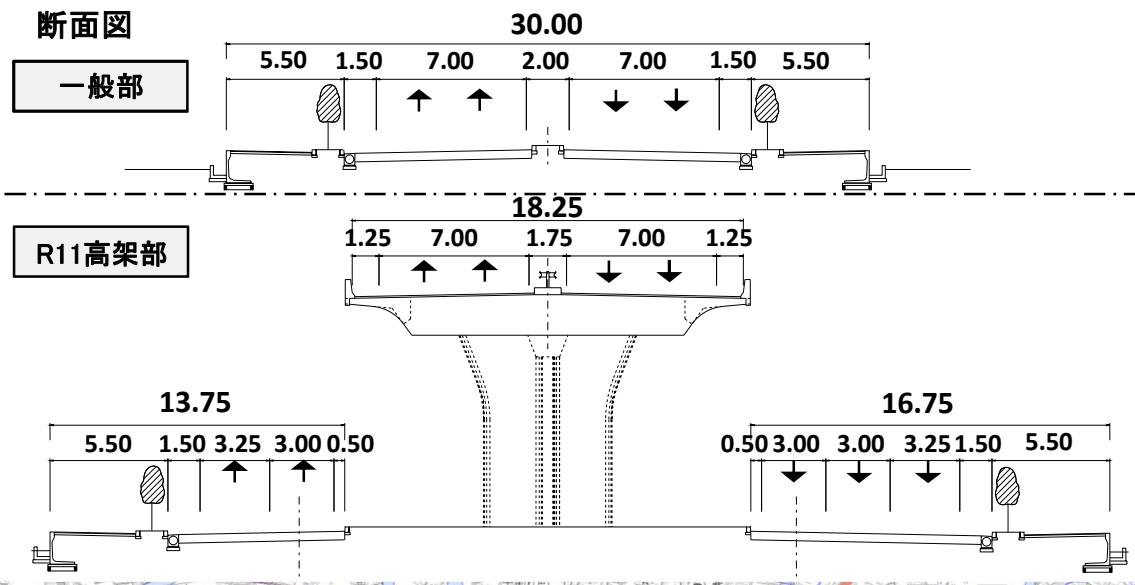
凡 例

- 計画ルート ■■■■■■
- 現道ルート ————
- 現 道 - - - - -

位置図



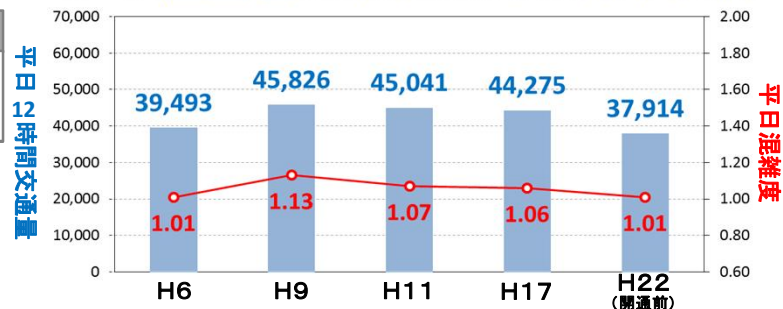
断面図



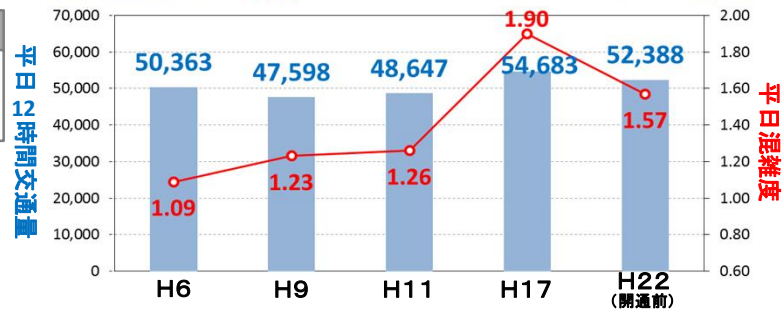
2. 現道等の道路交通上の問題

電子
国土

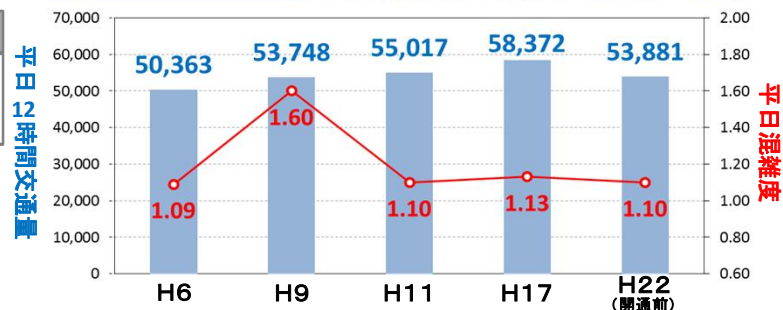
観測地点
徳島市
川内町
平石夷野



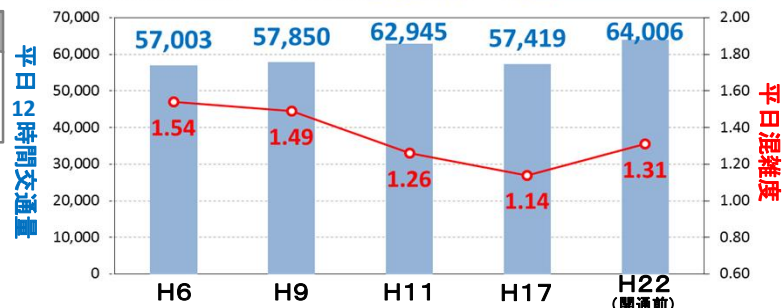
観測地点
徳島市
川内町
竹須賀



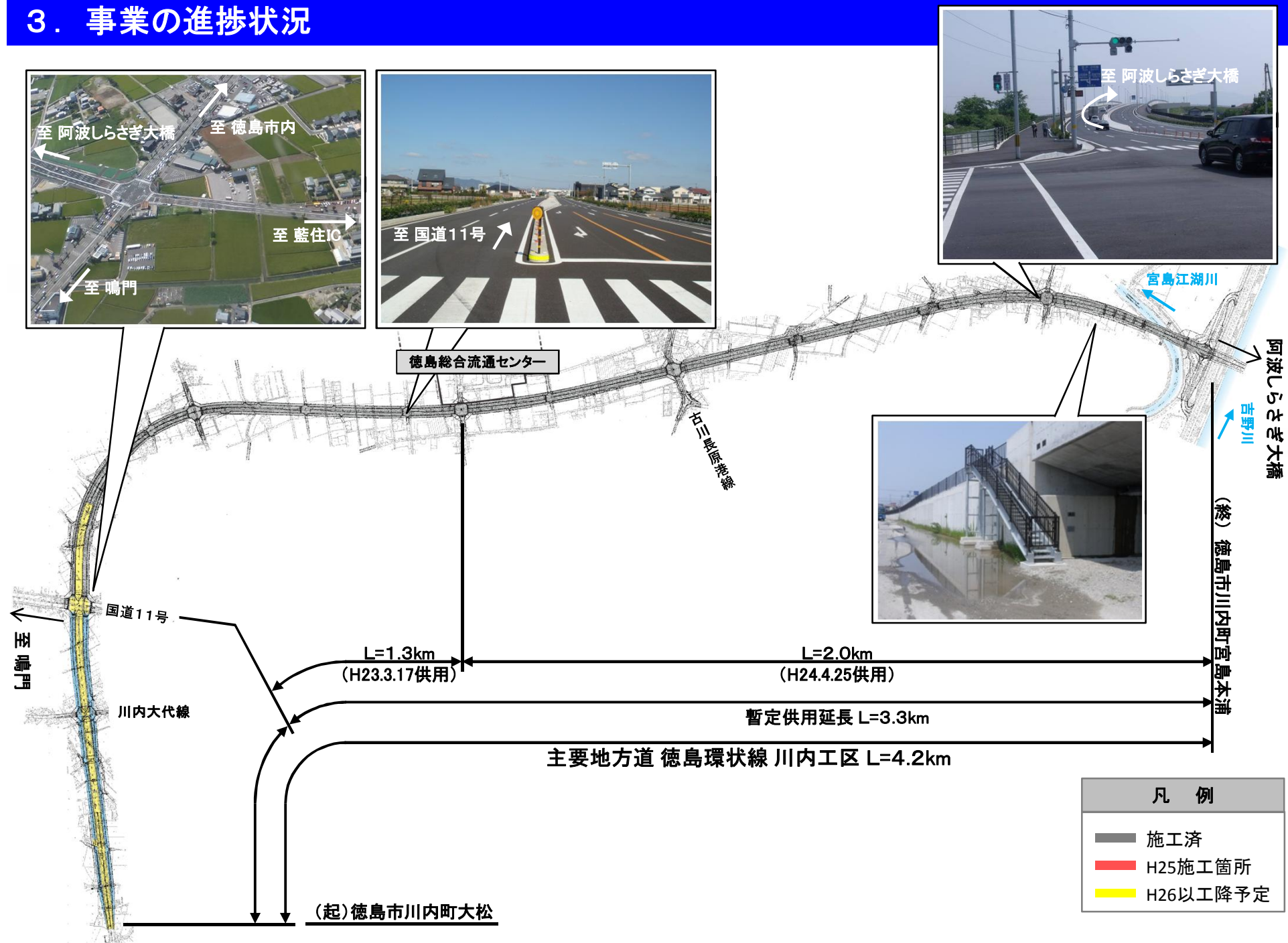
観測地点
徳島市
川内町
鈴江北



観測地点
徳島市
吉野町
2丁目



3. 事業の進捗状況



4. 事業評価結果

貨幣換算可能な整備効果

- ・ 走行時間短縮便益
 - ・ 走行経費減少便益
 - ・ 交通事故減少便益
- 計 **397.1億円**
(現在価値化後)



その他の便益

医療

- ・ 救命率の向上効果

計 **62.7億円**
(現在価値化後)
61.6億円

環境

- ・ 大気汚染や温暖化防止効果 0.6億円
- ・ 騒音低減効果 0.5億円

※費用C=299.6億円 (現在価値化後)

$$B/C = 1.3$$

(参考) その他の便益を含むB/C=1.5

貨幣価値に表れない整備効果

産業振興

- 物流拠点等へのアクセス向上
⇒ 地域経済が活性化

防災・減災

- 避難経路の整備
⇒ 地域防災力の向上
- 緊急輸送ネットワークの強化
⇒ 災害時の物資輸送等が効率化

5. 道路整備による多様な効果①【貨幣価値換算可能な整備効果】

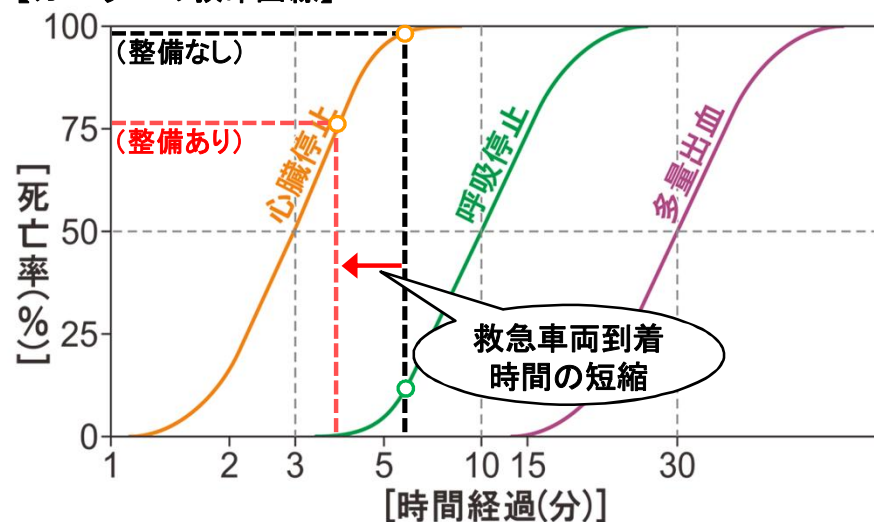
◎その他の便益

医 療

■救急医療へのアクセス向上

- ・徳島市消防署川内分署から集落までの**救急車両到達時間が短縮**されることにより**救命率の向上**が見込まれる

【カーラーの救命曲線】



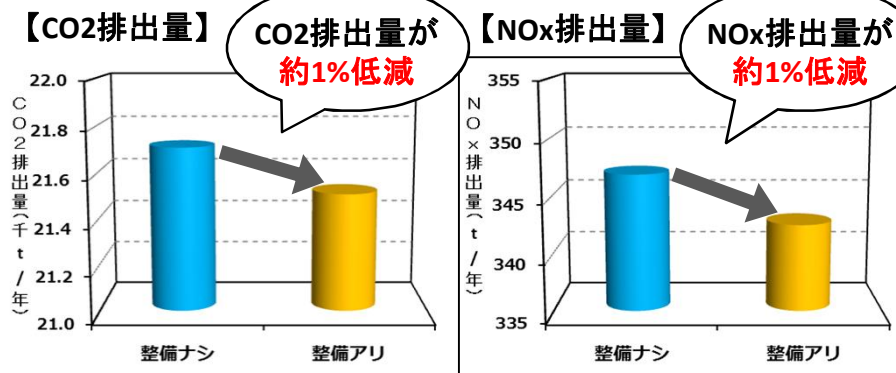
- ・呼吸停止後の死亡率が**約21%低減**
- ・多量出血後の死亡率が**約11%低減**

救命率の向上効果 : 61.6億円

環 境

■地球環境の保全効果

- ・**CO₂、NOxの排出量が抑制**されることにより、**大気汚染・温暖化防止効果**が見込まれる



大気汚染・温暖化防止効果: 0.6億円

■騒音低減効果

- ・現道の通過交通がバイパスに転換することにより、**現道沿いの騒音の低減効果**が見込まれる。

騒音低減効果: 0.5億円

6. 道路整備による多様な効果②【貨幣価値に表れない整備効果】

産業振興

●効果：地域の活性化

●物流拠点へのアクセス向上

平成24年度までの部分供用により、物流拠点「徳島総合流通センター」や「ブレインズパーク徳島」、観光名所である「阿波十郎兵衛屋敷」等と、**国道11号、高速道路とのアクセスが向上**。



阿波十郎兵衛屋敷



徳島総合流通センター

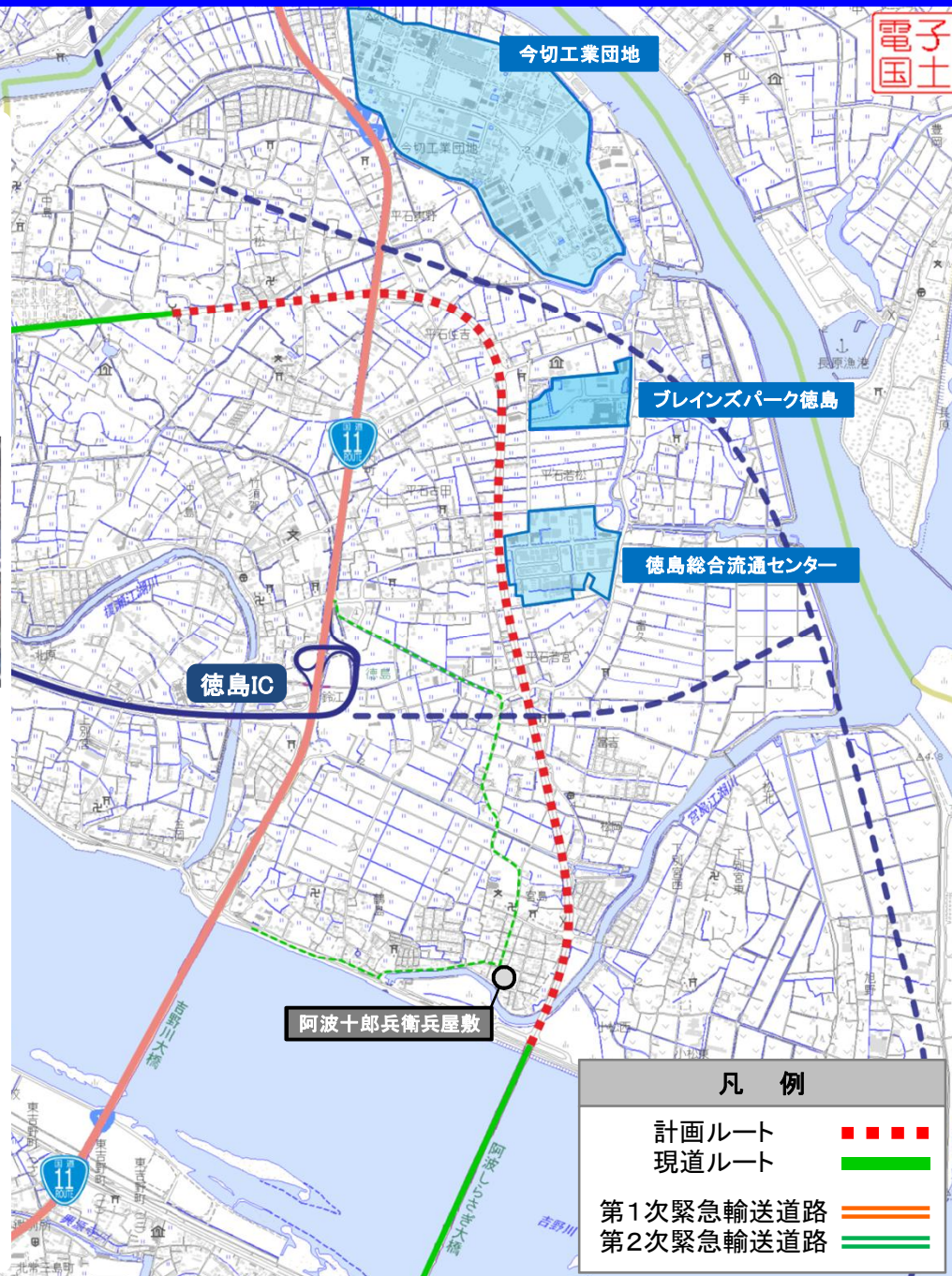
また、周辺地域は、県が全国トップの出荷量を誇るカリフラワーの生産地となっており、当事業や国道11号、高速道路が一体となった**道路整備が、農作物の出荷拡大に貢献**。



徳島県産カリフラワーの販売量の推移



地域経済が活性化



7. 道路整備による多様な効果③【貨幣価値に表れない整備効果】



防災・減災

●効果：災害に強い道路ネットワークの構築

①避難経路の整備

当事業箇所では、隣接する阿波しらさぎ大橋（歩道部分が津波避難場所に指定）への避難経路として、緊急避難階段を設置しており、周辺住民の避難場所へのアクセスが向上



地域防災力の向上



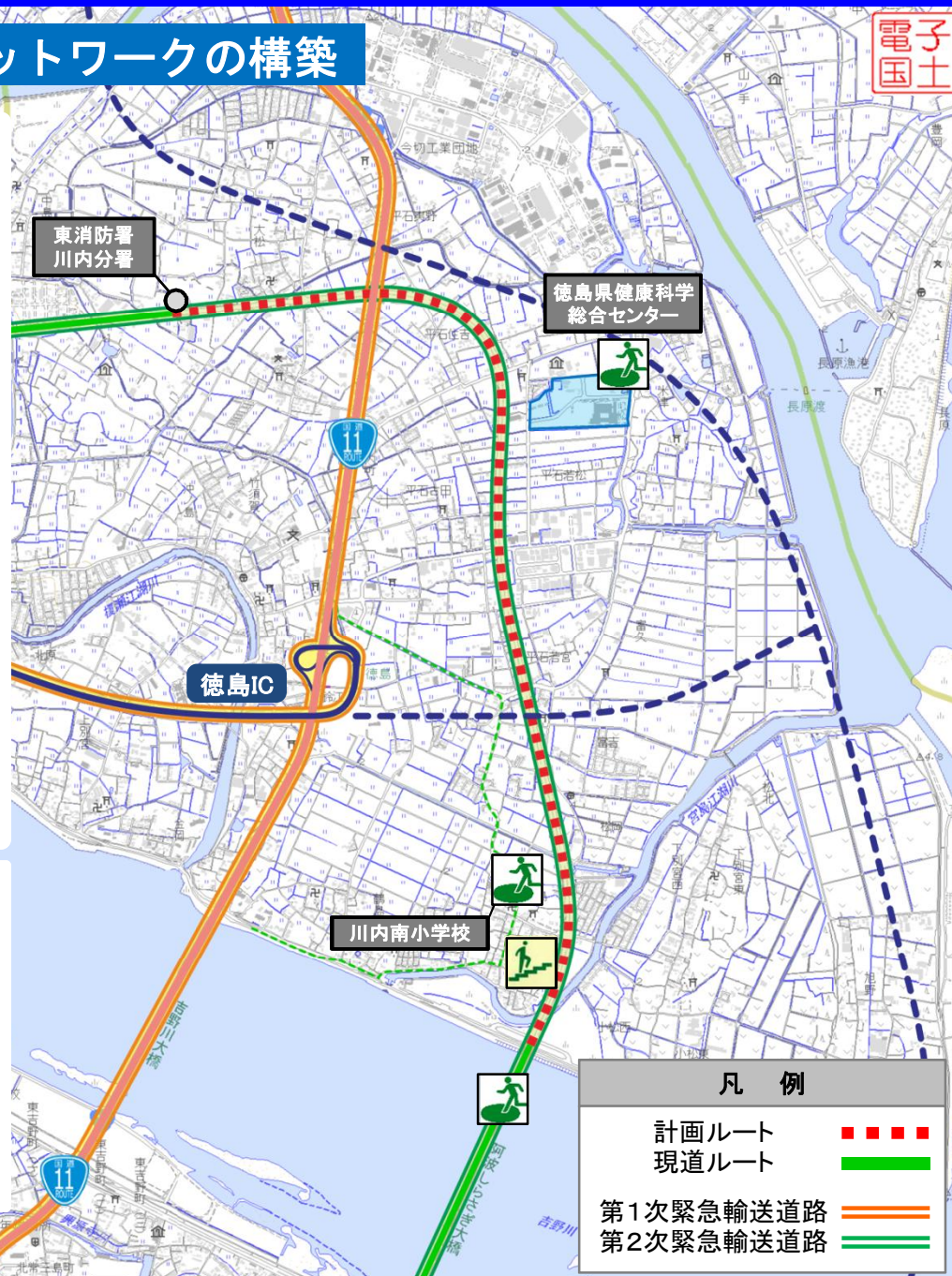
緊急避難階段

②緊急輸送道路ネットワークの強化

並走する国道11号を補完する第2次緊急輸送道路として、緊急輸送道路ネットワークの多重性（リダンダンシー）を確保



災害時の物資輸送等が効率化



8. 事業評価結果

貨幣換算可能な整備効果

- ・ 走行時間短縮便益
 - ・ 走行経費減少便益
 - ・ 交通事故減少便益
- 計 **397.1億円**
(現在価値化後)



その他の便益

医療

- ・ 救命率の向上効果

計 **62.7億円**
(現在価値化後)
61.6億円

環境

- ・ 大気汚染や温暖化防止効果 0.6億円
- ・ 騒音低減効果 0.5億円

※費用C=299.6億円 (現在価値化後)

$$\frac{B}{C} = 1.3$$

(参考) その他の便益を含む $\frac{B}{C} = 1.5$

貨幣価値に表れない整備効果

産業振興

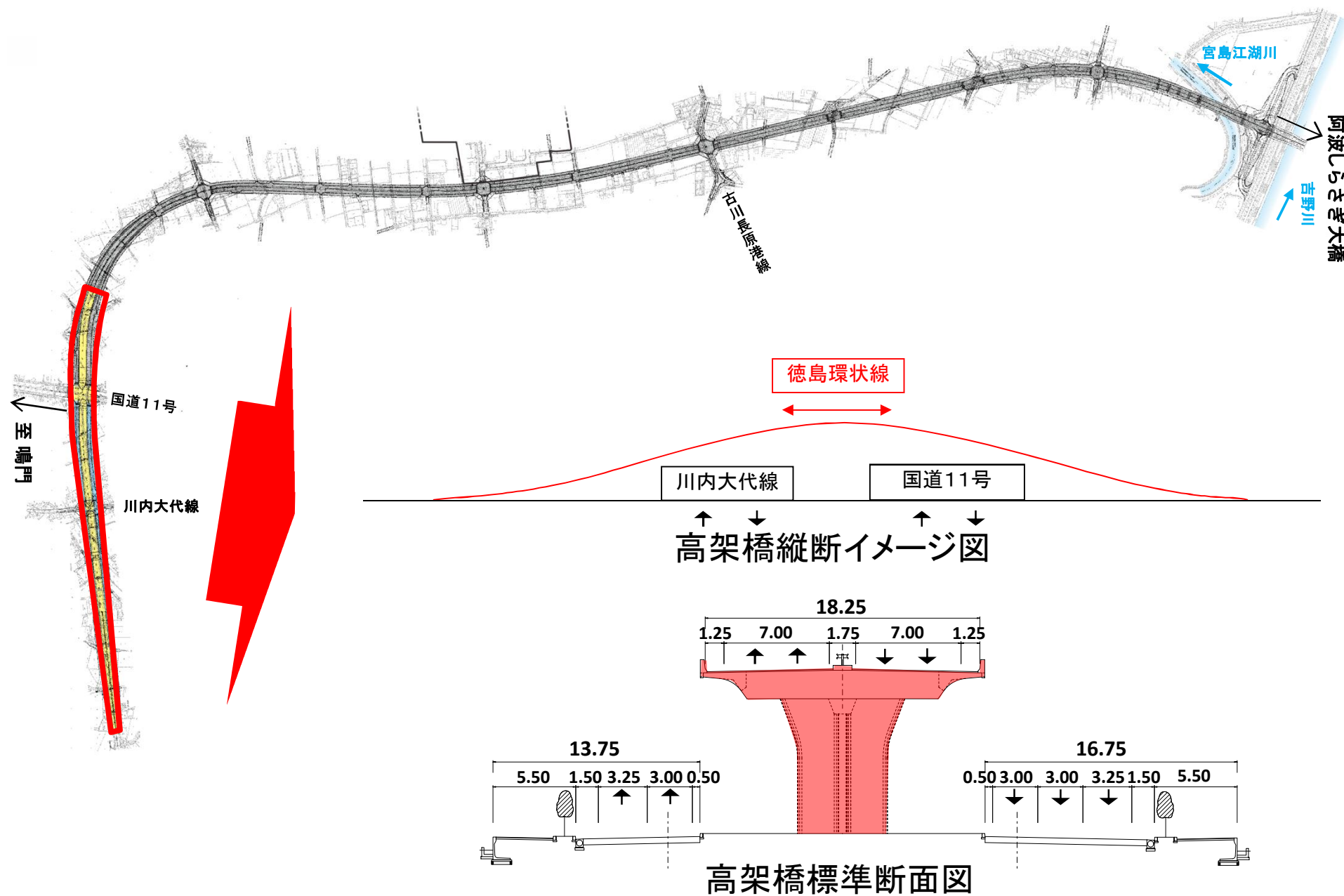
- 物流拠点等へのアクセス向上
⇒ 地域経済が活性化

防災・減災

- 避難経路の整備
⇒ 地域防災力の向上
- 緊急輸送ネットワークの強化
⇒ 災害時の物資輸送等が効率化

■ 今後の対応方針 (案)

9. 対応方針①（残事業の概要）

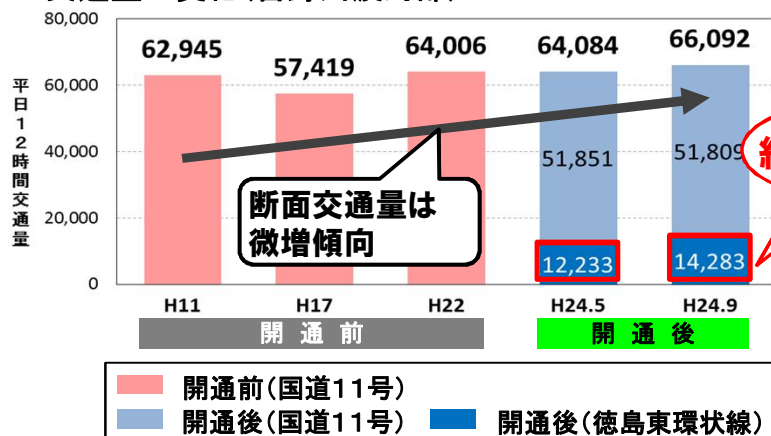


10. 対応方針②（部分供用による効果）

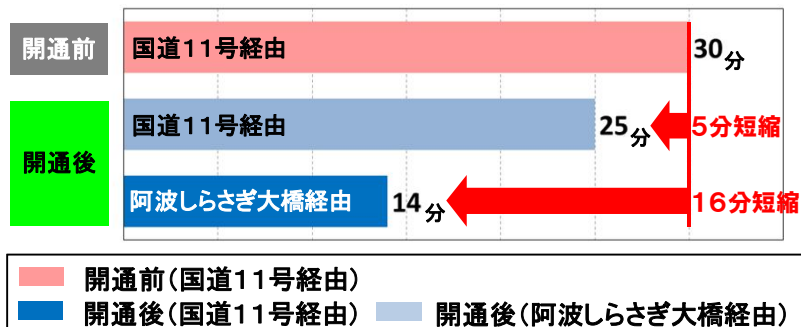


● 部分供用による渋滞緩和

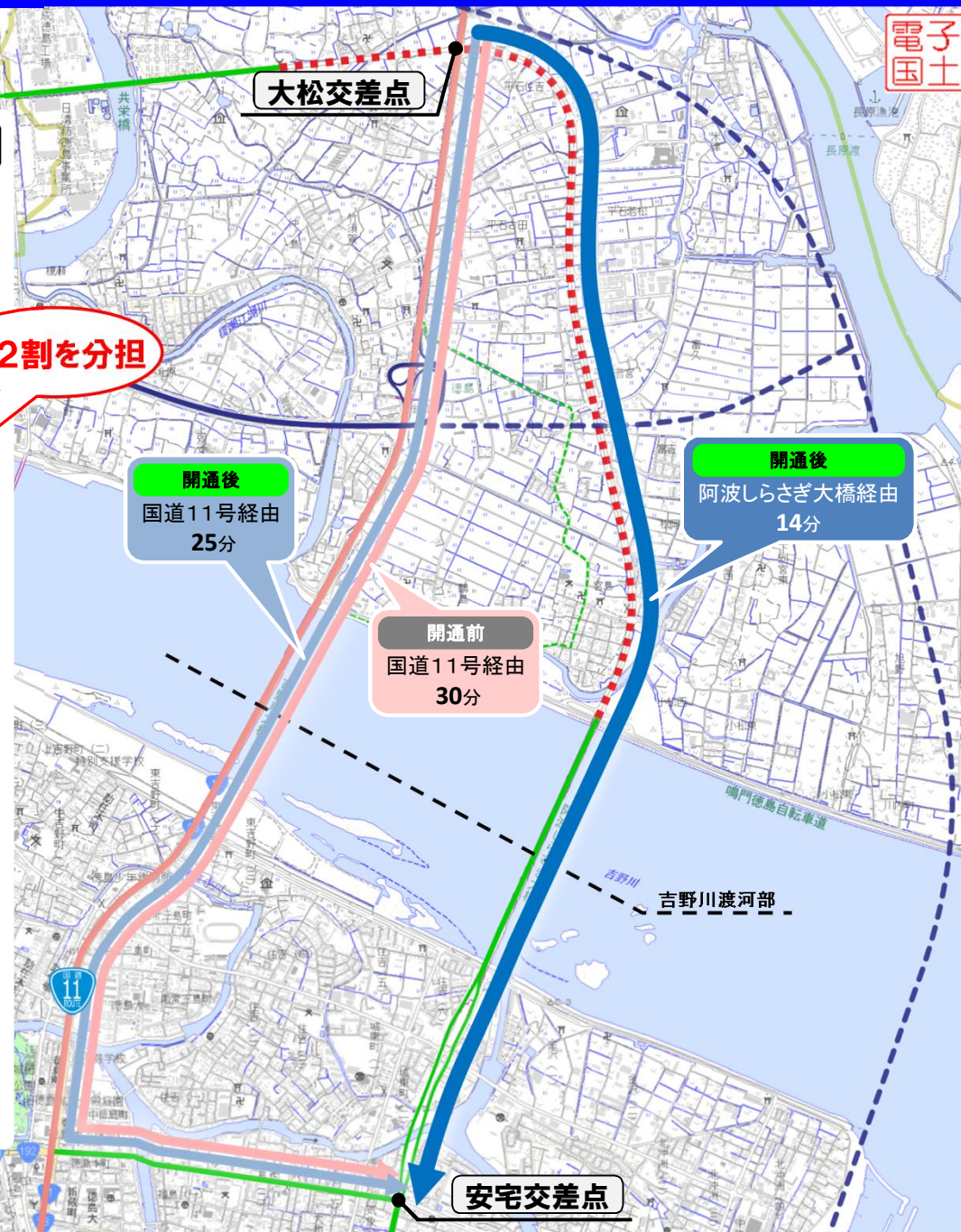
■ 交通量の変化(吉野川渡河部)



■ 旅行時間の変化(大松交差点～安宅交差点)



➡ 通過交通の円滑化が定量的に発現



1 1. 対応方針③（大松交差点の現状）

徳島東環状線（西側）



AM7:30

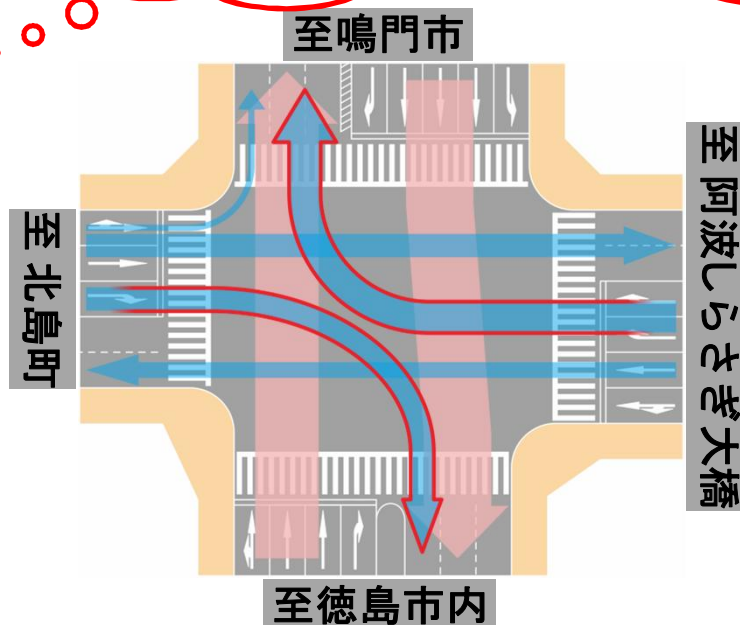
滞留長が500m程度に達することもあるが...

滞留列が東側の隣接信号に達することもあるが...

徳島東環状線（東側）



AM7:20



大松交差点の主な交通流



AM7:30

川内大代線に流れる車もあり、概ね単現示で処理されている。



AM7:20

信号間の車両は単現示で処理され、渋滞にはなっていない。

部分供用後の平成24年7月の混雑旅行速度は、一番混雑すると思われる徳島総合流通センター から国道11号方向の朝夕ピーク時でも平均29.0km/h（混雑の指標は、ピーク時の旅行速度が20km/h以下）

従前より混雑状況が改善

12. 対応方針④（今後の交通流の変動等）



今後、

- ・ 四国横断自動車道の整備状況
- ・ 東環状線、南環状線など徳島環状道路全体の進捗状況

等、当工区の交通流に影響の恐れ

**これら周辺道路の整備状況
を見極める必要あり**

1 3. 事業評価結果（まとめ）

貨幣換算可能な整備効果

- ・ 走行時間短縮便益
 - ・ 走行経費減少便益
 - ・ 交通事故減少便益
- 計 **397.1億円**
(現在価値化後)

その他の便益

医療

- ・ 救命率の向上効果

環境

- ・ 大気汚染や温暖化防止効果 0.6億円
- ・ 騒音低減効果 0.5億円

※費用C=299.6億円 (現在価値化後)

$$\frac{B}{C} = 1.3$$

(参考) その他の便益を含む $\frac{B}{C} = 1.5$

貨幣価値に表れない整備効果

産業振興

- 物流拠点等へのアクセス向上
⇒ 地域経済が活性化

防災・減災

- 避難経路の整備
⇒ 地域防災力の向上
- 緊急輸送ネットワークの強化
⇒ 災害時の物資輸送等が効率化

- ・ 従前より混雑状況が改善されていること
- ・ 今後の周辺道路の整備状況を見極める必要があること

■ 今後の対応方針（案）

事業休止